

出國報告（出國類別：國際研討會）

第九屆新生代有機化學國際研討會 會議報告

服務機構：國立中國醫藥研究所

姓名職稱：助理研究員 李宜融

派赴國家：日本

報告日期：100 年 5 月 31 日

出國時間：100 年 5 月 26~29 日

摘要 (200-300 字)

原預定於 100 年 3 月 28 日赴日本參加「日本藥學會第 131 年會」，並發表壁報論文。但是，由於同年 3 月 11 日在日本東北地區發生規模九級大地震，導致日本東北地方城市的毀滅性破壞和全國性的一時機能癱瘓，該年會的活動也因此宣布停止。目前，除日本東北地區之外，日本全國的機能已顯穩定，因此，本計畫為增進研究領域及國際學術交流，於 100 年 5 月 26 日~29 日赴日參與「第九屆新生代有機化學國際研討會」。

「第九屆新生代有機化學國際研討會」為日本藥學會化學系藥學部系之一環，以大學、研究所、企業的新生代研究者為中心的研討會，是一個非常具有傳承教育與研究相攜意義的研討會。

目次

一、本文 p.1~4

- (一) 目的
- (二) 參加會議經過
- (三) 與會心得及建議
- (四) 帶回資料

二、附錄 p.5

1. 研討會海報
2. 「日本藥學會第 131 年會」壁報發表要旨

本文

一、目的:

醫藥學的組成，有機化學是不可缺的重要部份。從日本的歷史經緯可以發現，日本的有機化學是由藥學演化而成的。21世紀的現在，天然物合成、有機金屬化學、複數環化學、分子生物學、創藥化學、遺傳生化學、、、，在化學各領域努力的年輕研究學者，將來可能成爲藥學領導者的這些人，透過本研討會將自己目前的研究成果和研究期望以口頭發表方式，在前輩研究者及師長長官的同伴下，取得研究理解、支持與指導的機會，是一個非常具有傳承教育與研究相攜意義的研討會。

希望透過本次研討會的參加，能將此經驗推廣於台灣，讓台灣的藥學有繼往開來的傳承。

二、參加會議經過

第一天

100年5月26日(星期四) 出發赴日

第二天、第三天

100年5月27日(星期五)~100年5月28日(星期六)，參加爲期兩天的「第九屆新生代有機化學國際研討會」

地點：日本藥學會長井紀念館

主辦單位：日本藥學會化學系藥學部會

協辦單位：日本藥學會醫藥化學部會

日本藥學會生藥天然物部會

有機合成化學協會

第四天

100年5月29日(星期日) 返台

三、與會心得及建議

2011年5月27~28日為期兩天的「第九屆新生代有機化學國際研討會」，為日本藥學會化學系藥學部系之一環，以大學、研究所、企業的新生代研究者為中心的研討會，是一個非常具有傳承教育與研究相攜意義的研討會。

當日的參加者約有300多人，有醫藥學系的大學生和碩博班生、教授學者及業界開發部門研究者等，每人的發表時間約15分與質疑問答10分。沒有優雅的點心時間和超時過量的演講，緊湊而實際的研討過程，新生代講者如何在短時間內將自己的研究公開發表，以及如何即時答覆質疑者的提問，將會談經驗和建議應用於往後的研究之中；經驗研究者如何將自己的經驗和建議，無私的傳授於新生代，給予支持與分享；然後結合大家的力量激盪，再創造出更上一層的研究發明。

大會會場”日本藥學會長井紀念館”，是紀念日本藥學會第一任會長長井長義教授而命名的，長井長義教授於1885年自麻黃發現麻黃素，並證明其大量合成的可能性，影響後世至今。

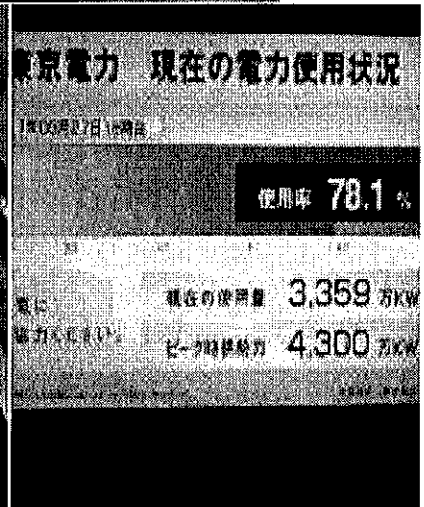
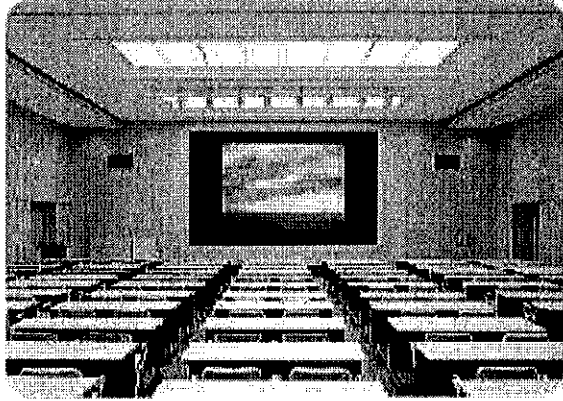
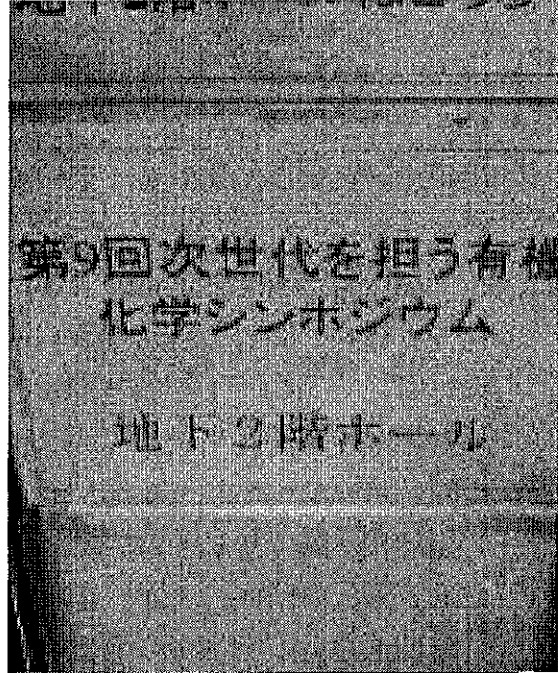
※礙於本研討會之發表內容多屬尚未論文發表之成果，大會明文禁止演講會場攝影，因此本報告無當時會場發表影像。

本次的出國計畫原訂於於100年3月28日赴日本參加「日本藥學會第131年會」，並發表壁報論文。但是，由於同年3月11日在日本東北地區發生規模九級大地震，導致日本東北地方城市的毀滅性破壞和全國性的一時機能癱瘓，該年會的活動也因此宣布停止。因此，更改於參與本次「第九屆新生代有機化學國際研討會」。

大地震後的日本，因為福島核能發電廠的損壞，造成日本全國電力的不足，因此全國性展開了”節電節能”的活動。以往明亮便利的車站，現在僅開燈約一半，手扶電梯僅提供少段尖峰時間使用，電視銀幕顯出每天的電力使用狀況…，雖然因而車站略顯昏暗不方便，但是全國國民共體時艱，實在是鄰近的台灣值得學習的地方。

<建議>

台灣的學術研討會或專題演講，多是以現任研究者或資深研究者為主的研究發表，新生代多處於凝聽學習的腳色，甚而少有提問發言；社會越來越顯冷漠，人與人的關係也越來越有距離，世代隔閡與教育傳承越來越不易；本次的以新生代研究者養成爲目的的「第九屆新生代有機化學國際研討會」，實有助於台灣學術界舉辦研討會或專題演講時的參考標的。



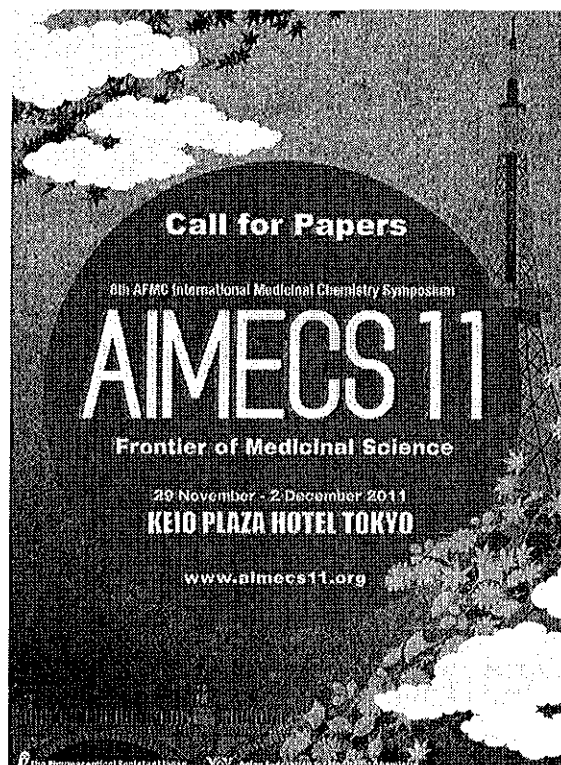
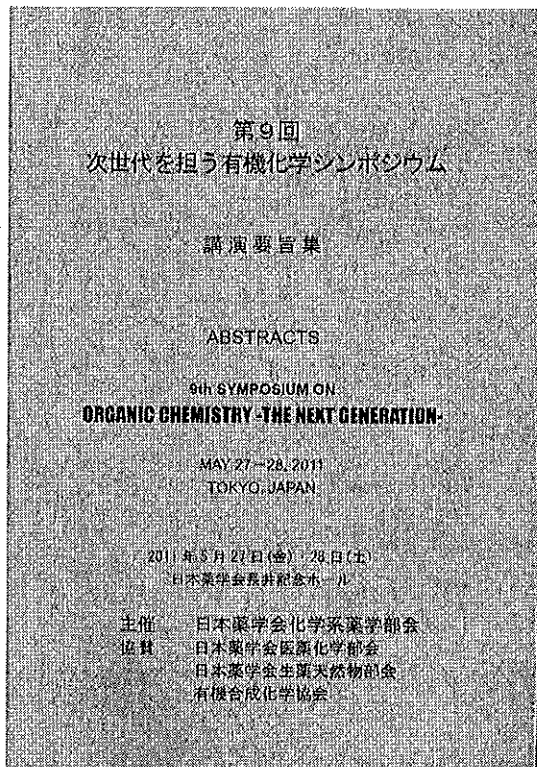
上圖：日本薬学会長井記念館

中圖：「第九屆新生代有機化學國際研討會」

下圖：池袋車站

四、帶回資料：

1. 「第九屆新生代有機化學國際研討會」演講主旨集
2. AIMECS11, 8th AFMA International Medicinal Chemistry Symposium, 29November-2December 2011 宣傳海報



附錄 1，本次活動海報



第9回 次世代を担う有機化学シンポジウム Organic Chemistry - the Next Generation -

【開催日時】
平成23年 5月27日(金)～5月28日(土) 次世代シンポ 横浜

【会場】
日本薬学会 長井記念ホール 東京都港区麻布台2-12-15
Tel (03) 3406-3326 / Fax (03) 3406-7580

【討論主題・発表形式】
有機化学全般・口頭発表 (基礎化学、物理化学、生物有機化学、有機無機化学なども含む)
有機化学及び関連分野の基礎～応用研究を対象としたシンポジウムです。
次世代を担う為面にあつた大学院生を中心とする若手研究者の口頭発表を募集します。
各分野の中から優れた発表をした日本薬学会学生会員に対して優秀発表賞(3枠以内)を授与する予定です。

講演申込締切	平成23年 2月18日(金)
発表要綱締切	平成23年 4月 1日(金)
予報参加申込締切	平成23年 4月15日(金)

【参加費】	学生会員 500円 (1,000円) 学生兼会員 1,500円 (2,000円) 一般会員 2,000円 (3,000円) 一般兼会員 3,000円 (4,000円)	【主催】	日本薬学会 化学系常務幹事会
【講演要綱】	5月27日(金)セッション終了後、会期内にて開催予定 会場：一棟 4,000円 (5,000円) 学生 2,000円 (2,000円) ※要申込	【協賛】	日本薬学会 有機化学委員会 日本薬学会 生薬薬物学委員会 有機合成化学協会

【第9回次世代シンポ事務局】
〒467-8603 名古屋市中区錦区錦通3-1
名古屋薬科大学大学院薬学系薬料薬化学分野内
Tel: 052-836-3409(内線) E-mail: jisedai@phar.nagoya-u.ac.jp
URL: http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~tuna/jisedai2011/

【第0回実行委員会】
実行委員長 松本 昌樹 (東北大学)
実行委員 石原 博 (東北大学医歯学部)
幹事 鈴木 孝敏 (名古屋大学)
幹事 朝地 剛久 (東北大学)

附錄 2，原訂於 100 年 3 月 28 日「日本薬學會第 131 年會」之發表壁報論文要旨

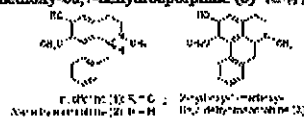
メディシナルフラワー研究: 蓮花 (*Nelumbo nucifera*, 花部) のメラニン生成抑制成分

Medicinal Flowers: Melanogenesis inhibitory constituents from flowers of *Nelumbo nucifera*.

(¹京都薬大, ²台湾国立中国医薬研究所, ³近畿大薬) 吉川 雅之,¹ 横田 奈美,¹ 中村 誠宏,¹ 中嶋 聡一,¹ 宮内 美穂子,¹ 十文字 悦子,¹ 前田 小百合,¹ 松田 久司,¹ 李 宜融,² 村岡 修,³

【目的】ハス (*Nelumbo nucifera*) はハス科 (*Nelumbaceae*) に分類されるインド、中国原産の大型多年生水生草本である。根茎はレンコンとして食用にされる他、その節は止血薬として用いられる。また、おしべは強壯、止血薬として薬用に供されており、花部はベトナムなど東南アジア地域で健康茶などの飲料素材として広く利用されている。今回、我々はメディシナルフラワーの機能性成分の探索研究の一環として、ハス花部 (蓮花) 抽出エキスについて種々生物活性評価を行ったところ、マウスメラノーマ由来 B16-4A5 細胞におけるメラニン生成抑制作用を見出した。そこで、蓮花の含有成分の単離およびそれらの単離成分のメラニン生成抑制作用について検討した。

【結果および考察】タイ産蓮花のメタノール抽出エキスを、酢酸エチル・n-ブタノールおよび水にて溶媒分配した。活性の集約していた酢酸エチル移行部および n-ブタノール移行部を順相シリカゲル・逆相 ODS カラムクロマトグラフィーおよび HPLC を用いて繰り返し分離精製したところ、6 種のアポロフィン型アルカロイドを含む計 10 種の既知成分を単離した。得られたアルカロイドおよびその関連アルカロイドについて、メラニン生成抑制作用の検討を行ったところ、muciferine (1)、N-methylasimilobine (2)、2-hydroxy-1-methoxy-6a,7-dehydrosporphine (3) に有意な活性が認められた。また、N 位のメチル基が強い活性の発現に必須であるなど構造と活性に関する知見が得られた。さらに、主要活性成分について作用機序の検討を行ったので合わせて報告する。



全文完